

投稿論文執筆要項

【一般的事項】

- 1) 原稿は、①横書きA4サイズ用の紙に40字×30行（MS明朝10.5ポイント）のページ設定した「ワープロ原稿」とする。原稿字数は、原則として本文のほかに日本語要旨（400字以内）・図・表・脚注・文献リスト等を全て含め「20,000字以内」とする（目次は、必要ありません）。ワープロ原稿の作成には、Windowsのワープロ・ソフト（word）を使用する（原稿の余白は、上下30mm、左右30mmとする）。また、図・表もExcelで作成した場合は原稿とは別途提出する。その際、ソフト名、ファイル名などを付しておく。
- 2) 原稿および図・表はオンライン投稿システムから投稿する
- 3) 叙述は特別な場合を除き、常用漢字、現代仮名遣いを使用し、平明な表現を用いる。
- 4) 数字は、特別な場合を除き、算用数字を使用する。たとえば、1234に統一する。ただし、「万」以上は、漢字を併用した表記とする。たとえば、1万1234円に統一する。
- 5) 文章の区切りには、「カンマ（,）と句点（.）」を使用する。ただし、原稿執筆時は「読点（.）、句点（.）」でも可とする。
- 6) 年次は、「西暦」に統一する。
- 7) 文章中での「引用文献」は、「著者名（出版年）」で表記し、執筆論文末に参考文献（引用文献を含む）で一括記載すること。後述の文献表記の説明を参照。
- 8) 本文中の「注」は、脚注とする。
- 9) 外国語については、以下の点に注意する。
 - ①外国語は、半角で入力する（e.g. public finance）。
 - ②イタリック体にする箇所は、イタリック体（*public finance*）、もしくは「アンダーライン」で表す。
 - ③ボールド体にする箇所は、ボールド体（**public finance**）、もしくは「破線」で表す。
- 10) 論文名、執筆者名、所属を表記したうえ、節等の見出しに関しては以下の表記とする。

論文名
節：1 ○○○… 項：1.1 ○○○…

以下は、(1)、(2)…、(ア)、(イ)…の順で使用する。できる限り(1)、(2)…で止めること。
- 11) 本文中の列挙に関しては、できる限り①、②、③…を使用する。
- 12) 校閲は執筆者の責任とする。

【図と表（見本参照）の書き方】

- 1) 図・表には、それぞれ「通し番号と表題」をつけること（e.g.「図1 ○○○…」、「表2 ○○○…」）。図と表は必ず分離して表記すること。図と表を一括して「図表1」のように表記することは認められない。また、図と表が1つしかない場合でも、単に「図」や「表」としないで、「図1」や「表1」とすること。
- 2) 図・表には、必ず「単位」を明記すること。
- 3) 図・表には、依拠した資料を（出所）として明記すること。論文などからそのまま引用した場合は、引用論文の頁数を付すること。執筆者が、統計データなどから作成したものは、「○○○より筆者作成。」と表記する。
- 4) 備考類は、(注) 1)、2)で示す。
- 5) 図の座標軸の原点が0（ゼロ）を示す場合は、明示すること。
- 6) 図・表は論文末に一括してまとめ、本文中には図・表番号の「挿入箇所」を明示しておくこと。
- 7) 表は、原則として1頁当たり45字×43行（縦向き）、65字×30行（横向き）（罫線、注、出所等を含む）以内で作成すること（罫線、半角数字は0.5字）。
- 8) 図は、原則として1枚当たり「400字」として計算する。
- 9) 図と表の数は合わせて、1論文5点までとする。

10) 表（見本）：ただし、スタイルなどは出版社に一任する。

表1 ○○○・・・

（単位：千円，％）

区分	芸術文化経費	文化施設経費	文化施設建設費	合計
1994	98,944,006(69.61)	196,796,436(15.08)	448,592,324(-23.69)	744,332,766(-8.92)
1995	57,936,983(-41.44)	215,976,509(9.75)	393,126,951(-12.36)	667,040,443(10.38)
1996	72,800,079(25.65)	282,497,555(30.80)	353,657,810(-10.04)	708,955,444(6.28)

(注) 1)

2)

(出所) ○○○より筆者作成。

【注の書き方】

1) 注の番号は、本文中に 1), 2) の通し番号で示し、原則として句点 (。)、カンマ (,) のある個所の直前の文字の右上につけたうえ、脚注として掲載する。ただし、原稿では論文末に一括掲載してもよい。

e.g. …といわれている¹⁾。 先行研究によれば²⁾、…

2) 注における引用文献ないし参考文献も本文中の引用文献ないし参考文献と同様の表記とし、執筆論文末に参考文献（引用文献）として一括して記載すること。

【参考文献（引用文献を含む）の書き方】

1) 参考文献（引用文献を含む）は、執筆論文末（注の後）に一括して記載すること。

2) 参考文献（引用文献を含む）およびその翻訳書の書き方は以下のとおりである。

①邦語文献

単行本 : 著者名（出版年）『書名』出版社。

雑誌論文 : 執筆者名（出版年）「論文名」『雑誌・紀要名』巻号，頁。

単行本所収論文 : 執筆者名（出版年）「論文名」著者名『書名』出版社名，頁。

新聞 : 「新聞名」年月日（朝刊または夕刊の記載）。

②欧文文献

単行本 : 著者名（出版年），書名（イタリック体またはアンダーラインを付す），出版社。

雑誌論文 : 執筆者名（年）“論文名，” 雑誌名（イタリック体またはアンダーラインを付す），巻号，頁（p. ○または pp. ○-○）。

単行本所収論文 : 執筆者名（出版年）“論文名，” in 編者名（ed.）または（eds.），書名（イタリック体またはアンダーラインを付す），出版社，頁（p. ○または pp. ○-○）。

翻訳文献 : 原著者名（出版年）書名（イタリック体またはアンダーラインを付す），出版社。（翻訳著者名〔出版年〕『翻訳書名』出版社名。）。

インターネット上の文献など

: 著者名「文献表題」<URL>参照年月日。

e.g. 総理府統計局（2001）「人口推計 2001. 5. 26 更新」<<http://www.stat.go.jp/>>2003. 7. 1 参照。

（2020年10月17日改訂）